

# 三重県における地域医療圏ごとの災害対策

—病院 BCP の策定を踏まえて—

三重県病院協会理事長

桑名市総合医療センター理事長

竹田 寛

## 自然災害の激甚化と新型コロナウイルス感染

昨年(2019年)は台風19号や度重なる大雨などにより、全国各地には甚大な被害がもたらされた。年々激甚化する自然災害、その上に今年は新型コロナウイルス感染が重なり、私たちも地域医療を守るために、十分な備えをしなければならない。

## 事業継続計画 (BCP) の策定

すべての病院は、いつ、どこで、どのような災害が起こっても、地域住民を守るために必要な医療や介護をどれくらい継続できるか、その計画を策定することが義務付けられている。すなわち事業継続計画 (BCP) であるが、しかしその策定率は非常に低く、全国平均で約30%、三重県で53%である(昨年度末現在)。しかも策定の済んだ病院の多くは災害拠点病院で、それ以外の病院ではあまり進んでいないのが実状である。

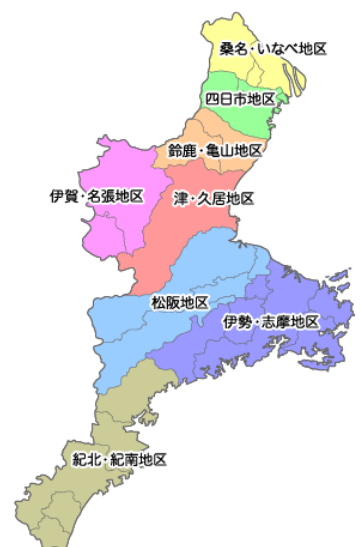
## 災害発生時に、地域医療を守るために役立つ BCP とは？

災害が発生した場合、地域全体としての医療を継続するためには、各医療機関がどのように役割分担し、協力体制を組むかと云うことが大切である。しかし既に策定されている BCP の多くは、各病院が独自に作成して他の医療機関との連携についてあまり考慮されておらず、災害発生時に十分な協力体制がとれるか疑問視されている。

そこで BCP を作成する際に、その病院の規模や専門性を考慮し、想定される災害の状況に応じて他の医療機関との協力体制や役割分担を明確にすれば、真に地域医療を継続できる災害対策が出来上がるものと期待される。

## 三重県における 8 医療圏ごとの BCP 策定への試み

三重県の 8 医療圏において、所属する病院の院長や防災担当者などが集まり、災害工学がご専門の三重大工学部川口淳准教授による講習会やワークショップ形式での指導のもとに、皆で話し合いながら、それぞれの病院の BCP を策定する。



三重県における 8 医療圏

## 病院の規模や専門性による役割分担

まず病院の規模を以下の3つに分類し、それぞれの役割を定める

### グレード3：総合病院、災害拠点病院

入院患者を守る、傷病者に対応する、他院からの入院患者を受け入れる

### グレード2：中規模病院、専門病院

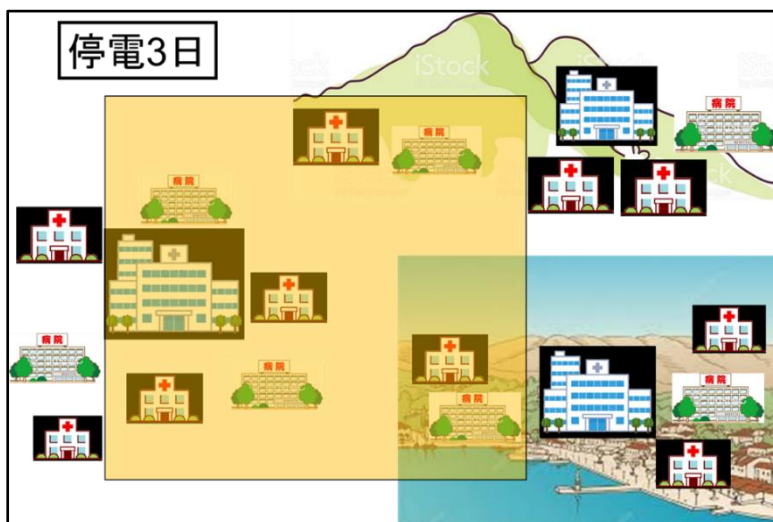
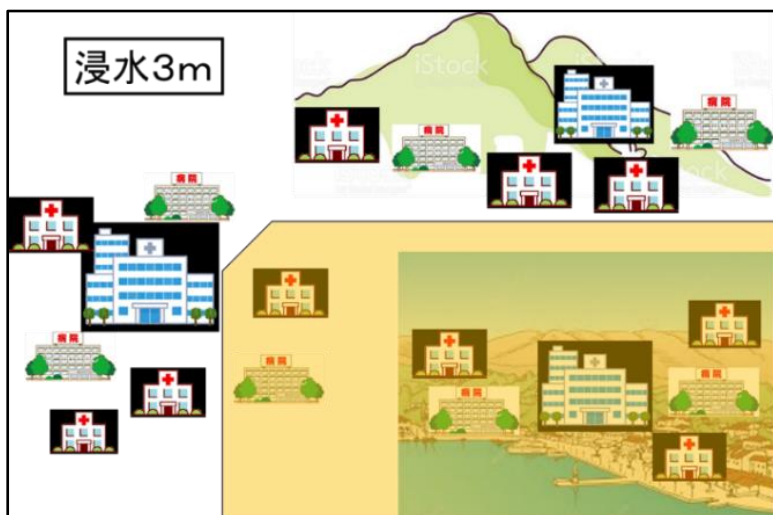
入院患者を守る、傷病者に対応する

### グレード1：小規模病院、専門病院

入院患者と職員を守る

## 様々な被害想定とその対応

次に様々な被害を想定する。例えば浸水3mや停電3日の被害が発生したとする。薄橙色の枠で囲んだ病院では機能が停止する。そこで残った病院が、どのように役割分担し協力体制をとれば、少しでも地域医療を維持することができるか検討する。こうして、どのような被害が生じて、残った病院の機能をフルに結集して、地域医療を守るための対策を練る。



	<b>グレード3</b> 総合病院 災害拠点病院
	<b>グレード2</b> 中規模病院 専門病院
	<b>グレード1</b> 小規模病院 専門病院

## 各医療圏における病院 BCP 策定の現状

令和元年度末における県内各医療圏における病院 BCP 策定率を下表に示す。

各医療圏においてグレード別に分類した病院のうち、既に BCP 策定の終了した病院を括弧内に示す。三重県全体では、93 病院中 49 病院で BCP の策定が終わり、策定率は 53%と全国平均の約 30%を大きく上回っている。

地域医療圏別にみると、BCP 策定率は上述したように桑名・いなべ地区が最も高く、ついで伊勢志摩、東紀州、津医療圏の順であった。桑名・いなべ地区では、モデル地区として昨年より BCP 策定のための講習会が既に 4 回行われ、BCP 策定作業が進んでいるからである。

病院の規模別にみると、総合病院、災害拠点病院などの大規模病院（グレード 3）では、22 病院中 18 病院(82%)で策定が終わっているが、中小規模の病院や専門病院（グレード 2、1）では、半数ほどしか終わっていない。

	グレード			合計	BCP 策定率
	3	2	1		
桑名・いなべ	3(2)	6(6)	6(5)	15(13)	87%
四日市	4(3)	6(1)	4(1)	14(5)	36%
鈴鹿・亀山	3(1)	3(1)	6(0)	12(2)	17%
津	2(2)	11(6)	9(5)	22(13)	59%
伊賀	2(2)	1(0)	3(1)	6(3)	50%
松阪	3(3)	2(1)	5(1)	10(5)	45%
伊勢志摩	3(3)	4(2)	2(0)	9(5)	63%
東紀州	2(2)	1(0)	2(1)	5(3)	60%
三重県全体	22(18)	34(17)	37(14)	93(49)	53%

## 今年度の活動

今年度に入り、コロナ感染拡大のために活動は中断していたが、7 月 21 日には伊賀地区にて 3 回目の講習会が、東紀州地区では 7 月 16 日に最初の講習会が開かれた。また桑名・いなべ地区では 10 月 2 日に、洪水や停電など様々な被害を想定して、各病院がどのように役割分担をして協力体制を組むか、話し合いながら検討する講習会を開催する予定である。

その他の医療圏でも、一日も早く BCP 策定に向けた取り組みを開始されるようお願いしたい。

このように医療圏ごとに病院が一体となって BCP 策定を行っているのは三重県だけで、独自の取組である。これがうまく行けば、地域医療を守るための災害対策が、全県挙げて出来るものとなるものと期待される。